

地域のために「自分達は何ができるか」を問い続ける“探究的な学び” 佐久市立東中学校

なぜ「縦割り」なのか？【背景と目的】



SWOT 分析：素直で真面目だが、主体性が弱く「正解をまっ
てしまう」姿がある生徒。

○VUCA の時代を生き抜くために、自らの問いをもち、失敗
を恐れず挑戦する力が必要

■目指す姿・・・学校教育目標の改変 「未来を拓く」 (佐久東中学校の“挑戦”)

○VUCA の時代を生き抜くために、自らの問いをもち、失敗を恐
れず挑戦する力

○それでもなお、守りたいもの「友と一つのことを成し遂げ感
動を共有すること」 (AI にはできない人間ならではの価
値)

探究を支えるシステム【構想】

■活動の枠組み

- 年間 35 時間を“縦割り探究”の時間に設定
- 6つのカテゴリー：観光・食・環境整備・文化芸術・福祉・
国際理解

■「縦割り班」のメリット

- リーダーシップの発現：先生の手を離れ、生徒主体の活動へ
- 多様な視点：学年を超えた対話による刺激
- 文化の継承：次の学年に引き継がれる“持続可能な活動”

実践のプロセス【地域へ飛び出す生徒達】

■「問い」・・・「地域のために自分達は何ができるか」

- 情報収集：自分達の足でその現場に行き、感じたリアルな
実体験
- 課題の更新
 - ・対処的な「ゴミ拾い」からポスターづくりなど啓発的
な活動に
 - ・誰に伝えるのかという“対象者”の明確化に

生まれた成果と『リアルな言葉』



■生徒の実態と課題

○



今後の総合的な学習におけるビジョン

早発でなく年間を貫く
「探究的な学び」による
総合的な学習の時間
＝縦割りによる編成＝
【25時間】

行事や学年で活用する
総合的な学習の時間
【2.5時間～4.5時間】
・文化祭準備、学年行事

テーマ：地域貢献（自分たちが有つこの地域に自分達は「何ができるか」
編成：縦割り（それぞれの「問い」を束ね班編成を行う。）



自分の足でその場におもむく
ことで得られるリアルな体験



■生徒の変化

- ・「やらされている活動」から「自分達で計画し動く活動」へ
- ・直接聞く言葉には信用できる「思い」と「事実」がある

■地域の方の肯定的な声・小学生のあこがれ